

将来像: 適切に管理・保全された森林が様々な形で活用され、就業機会の増加や安定した所得の確保などにより若者が定住し、山村地域が活性化

「健全な森林」

- 針葉樹、広葉樹、針広混交林が機能に応じてバランス良く配置され、公益的機能を高度に発揮
- 計画的な治山事業の実施、山地保全対策の推進による「緑の県土強靱化」が実現

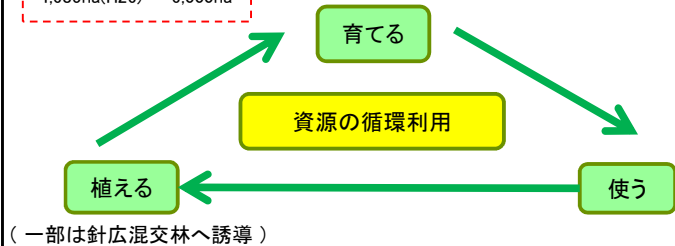


針葉樹林

「森の生産工場」

- 木材が計画的かつ安定的に生産され、年齢構成の平準化が実現
- 森林資源の循環利用による持続可能な林業経営が展開

※ 森林整備の実施面積  
4,685ha(H26) → 6,000ha

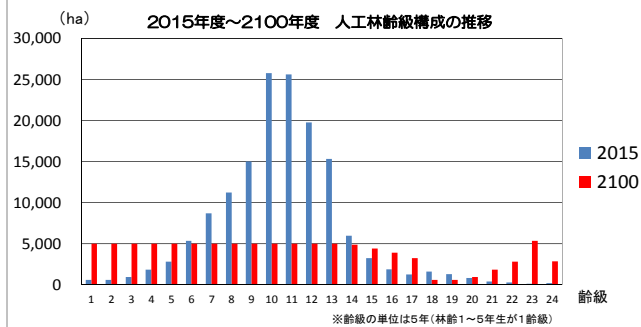


高性能林業機械による造材



路網を活用した県産材の搬出

○人工林年齢構成の平準化



◎今世紀後半: 皆伐1,000ha/年、木材生産量364千m<sup>3</sup>/年

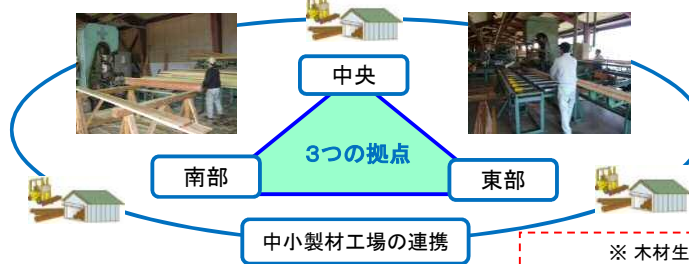
木材の安定供給

バイオマス資源の安定供給

材

「里の加工工場」

- 3拠点が県内製材工場をリードするとともに、中小製材工場が得意分野に特化した上で連携
- 県民ニーズに対応した品質・性能の確かな製材品などの安定供給



※ 木材生産量  
156千m<sup>3</sup>/年(H26) → 335千m<sup>3</sup>/年

山梨ブランドの戦略的売り込み

【FSCブランド・やまなし水源地ブランド・南部の木ブランド】

「都市の森林」

- 新技術の導入などにより、中高層の建物や住宅などに県産材がふんだんに利用され、リニア駅周辺をはじめ、市街地に都市の森林が出現



イメージ



イメージ

CLT工法を用いて建築された集合住宅

エネルギー

「木質バイオマス利用施設」

- 地域に密着した木質バイオマスのエネルギー利用施設が県内各地に整備
- 木質バイオマス資源が再生可能エネルギーとして有効活用



木質バイオマス発電所(発電)



薪ボイラー(熱利用)

※ 木質バイオマス  
利用施設数  
23施設(H26)  
↓  
33施設

広葉樹林・針広混交林

場

「森林資源の新たな活用」

- 新たな産業の創出・6次産業化の進展
- 特用林産物の新たな栽培品種が開発され、山梨ブランドとして確立

観光資源としての森林利用



森林セラピー(ヨガ)

※ 自然を目的として本県を訪れる観光客数  
5,425千人(H26) → 5,788千人

山梨ブランドの商品開発



ハナピラタケ



料理レシピ例



タケノコ加工食品

FSC認証材製品

※ 特用林産物生産への新たな取り組み  
件数(累計) 2件(H26) → 20件(累計)